

通信俳句大会報告

令和2年7月

俳人協会広島県支部

通信俳句大会開催のご挨拶

俳人協会広島県支部長 木村 里風子

今年2月頃から蔓延し始めた新型コロナウイルス感染症のため、3月24日に開催した広島県支部の役員会において、4月21日に予定していた広島県支部の春季俳句会及び令和2年度の総会を中止することになりました。

総会も開催出来ないことから、前年度の事業報告、決算報告・監査報告及び令和2年度の事業計画、予算案については、秋季俳句会において総会をすることにし、それまでの間は役員会で承認された計画及び予算にしたがって広島県支部の運営を行うことにしました。

しかしながら、令和2年度も例年通り会費を納めていただく中で、春季俳句会に替わる何らかの行事があっても良いのではないかとの事務局からの提案があり、「通信俳句大会」の開催について、急遽、文書によって支部役員全員に賛否を諮ったところ、大方の賛成が得られたので開催することになりました。

6月初旬に「通信俳句大会」の趣意書と投句専用のハガキとを広島県支部会員全員に送るとともに、過去の広島県支部の春季俳句会及び秋季俳句会に出席されて、住所が判る一般の方にも同様に「通信俳句大会」の趣意書と投句専用のハガキを送り、なおかつ、会員から一般の方々へのお声がけをしていただきました。

6月27日応募期限として句を募集したところ、237名から応募があり、474句の投句がありました。そこで選句については投句者全員の互選とし、早速作品一覧を作成し、選句用ハガキとともに応募者全員に送りました。7月17日を期限とし、各人、特選1句、並選4句を選んでもらいました。

なお、今回の「通信俳句大会」に際し、俳人協会本部に特別選者を依頼し、本部理事の今井聖先生を推薦していただきました。今井聖先生には特選3句、並選10句を選んでいただき、それぞれ短評を書いていただきました。厚くお礼申し上げます。

また、「通信俳句大会」に対して俳人協会本部から「京都吟行案内」「俳人協会俳句手帳」などの賞品をいただきました。コロナ感染症が速やかに収束し、元気に俳句が詠めるように祈念して通信俳句大会のご挨拶とします。

俳人協会広島県支部通信俳句大会
特別選者に今井聖先生

「プロフィール」

昭和25年生

昭和46年 「寒雷」 入会

昭和60年 「寒雷」 同人 「寒雷」 編集部を経て

平成8年 横浜で俳句誌「街」創刊主宰

俳人協会理事

句集に「北限」「谷間の家具」「バーベルに月乗せて」

第32回俳人協会評論賞「言葉となればもう古しー加藤

楸邨論一」

互選一位に黒田智彦さん

得点は、特選2点、並選1点。11点以上の28名を掲載。

29点 牛舎よりロツク洩れくる麦の秋 黒田 智彦

23点 すててこが来てむつかしきことを言ふ 野間しげる

23点 濡れてより大胆になる水鉄砲 川手 和枝

21点 夕薄暑牛の背を搔く大東子 馬木 芳子

21点 薫風や大きくひらく象の耳 黒田 智彦

20点 花莫産の匂ひ大きくひろげけり 戸栗 末廣

18点 立ち居にも芯といふもの薄ころも 清水 和子

17点 サングラスとれば世話好き話し好き 村本 恭三

15点 笙の音や星の涼しき巖島 永并由紀子

15点 宍道湖の夕焼けに置く旅靴 小林 怜子

15点 老鷲や弥撒で始まる島の朝 波多野千鶴子

14点 戸籍てふ紙の重みや花は葉に 橋垣千鶴子

14点 茅の輪組む氏子禱りの力瘤 波谷 櫻女

14点 風五月弔辞に替へてハーモニカ 藤本智恵子

13点 子に合はず父の目線やてんとむし 嶋治久美子

13点 潮引けば千の穴より千の蟹 川口 崇子

12点 ソーダ水一氣に吸つて過去は過去 青木 遵子

12点 ピストルに打ち落とさるる泳者かな 村本 恭三

12点 茄子漬や姉妹で違ふ母の味 村本クニ子

12点 秘めごととは拾はず踏まず落し文 務中 昌己

11点 ふる里の夕映え長き代田かな 山崎 英治

11点 孕み鹿大粒の糞こぼしけり 長谷川明子

11点 掬ひ飲む日の斑のゆるる山清水 浅田 洋子

11点 糠床に打つ粗塩や朝ぐもり 植田トモ子

11点 蚊遣火や腹遣に読む少年誌 中本 弓

11点 原つばをひるがへしては捕虫網 栗屋紀佐子

11点 蟻地獄見てゐて喉の渴きけり 赤松 佑紀

11点 千枚田雲の中まで青田波 前原 俊五

【特別選者の選句】

今井 聖 選

特選 天

375 白南風や牛舎を車庫に父老いぬ 水田 博子

(選評) 「牛舎を車庫に」が日常的でリアル。俳句は俳句的な情趣をあらかじめ設定して詠むのではなく、このように自身の日常感や生活感が中心に座ると自ずと季節感も効果を表す。

特選 地

369 木の橋と夏うぐひすと老人と 戸栗 末廣

(選評) 三者がうまく絡み合い、特に「老人」がほろ苦くも人生感を見せている。清新な自然と老いが対照をなして切ない。

特選 人

377 すててこが来てむつかしきことを言ふ 野間しげる

(選評) すててこを擬人法で用いている。そんな姿で来て「むつかしきこと」を口にする。この句はユームアの句である。

並選

45 孕み鹿大粒の糞こぼしけり 長谷川明子

(選評) 孕むということと排泄のありさまが「生きる」と「の必死を思わせる。」

55 夕薄暑牛の背を搔く大束子 馬木 芳子

(選評) 大束子の「大」の強調が特に良い。把握が大づかみで力がある。

59 青饅やあと五分ある炊飯器 藤井富志子

(選評) ご飯のおかずとしての青饅というより青饅のためにご飯を炊く。

89 豪雨あと土囊にからむ蛇苺 児玉 明子

(選評) 水嵩が引いたあとの水辺の風景が印象的。蛇苺の赤が切ない。

136 大いなる仁王の胸を蜘蛛走る 坂本たか子

(選評) 「大いなる」が仁王の筋骨の隆々たるさまを活写している。そこを走る一点の蜘蛛。

188 紫陽花や寺の落語に癒される 山田 澤子

(選評) 紫陽花と落語の明るさが通い合う。文語なら「癒さるる」。

199 樨繁る闇を透かして梅雨の月 辻井 康子

(選評) 梅雨闇のおどろおどろしい感じとそこを照らす月の風景が見事。

222 蚕豆の皮食みいつも少数派 尾熊 靖子

(選評) 中七までの説明と下五の述懐がびつたり。

258 すつぴんのまま向かひ合ひ氷菓子 すぎ穂波

(選評) 氷菓子の冷たさと質感が「すつぴん」とびつた

434 墨跡の今東光やすき宿

大野 晃子

(選評) 怪人と言われた作家僧侶今東光の特質に「すすき宿」は合う。

【指名選者の選句】

木村里風子 選

特選

155 子の担ぐ柩の上を鳥帰る

ふるもと俊子

(選評) 父か母か、柩を担ぐ子は涙をぐつと堪えているのである。

並選

27 生魚より魚拓麗し籐寝椅子

松本加代子

234 夕河鹿棚田にかかる山の影

小川 蒼子

253 古切符飾る駅舎や余花の雨

山田 雅子

465 八雲立つ古代の蓮に銀傘

永 伊予人

尾熊 康子 選 (八染藍子代選)

特選

243 薫風や大きくひらく象の耳

黒田 智彦

(選評) 薫風の心地よさを思わず体で表現した象。その

瞬間に居合わせた幸せ。デイズニーの世界へ誘われて遊べそう。「ひらく」の書き方にも心遣いを感じる。

並選

152 たたなはる闇を踏みゆく螢狩

米田由美子

321 原つばをひるがへしては捕虫網

栗屋紀佐子

365 蟻地獄見てゐて喉の渴きけり

赤松 佑紀

377 すててこが来てむつかしきことを言ふ

野間しげる

飯野 幸雄 選

特選

195 幼な子が手を振りほどく夜店かな

江竜 陽子

(選評) 幼な子にとって夜店は興味しんしん。手を握ってなんかいられない。

並選

41 被災川の螢の乱舞深き黙

原田 妙子

306 夏座敷水平線へ向いてをり

小都 妙子

321 原つばをひるがへしては捕虫網

栗屋紀佐子

325 山国の月星近し鮎の宿

大葉 明美

石橋 康徳 選

特選

9 ねつかれぬ闇の重さよ熱帯夜

井上富美江

(選評) 上の句と下の句をつなぐ中のフレーズ「闇の重

さ」が絶妙である。

並選

50 骨折の部位の写真や梅雨寒し

木村里風子

83 梅雨空や出窓に猫の指定席

土居 直子

230 父の日や一等重き飯茶碗

岡田真利子

274 あふれでることばのやうに枇杷熟るる

日比野さき枝

石本百合子 選

特選

19 サングラスとれば世話好き話し好き

村本 恭三

(選評) サングラスを外すと強面から優しい人柄が顯れる意外性の面白さ。

並選

72 ビール干す礼節の距離ニメートル

木村 幸枝

153 糠床に打つ粗塩や朝ぐもり

植田トモ子

191 風わたる解脫門より蟻の列

藤井 彰二

394 濡れてより大胆になる水鉄砲

川手 和枝

大上 充子 選

特選

153 糠床に打つ粗塩や朝ぐもり

植田トモ子

(選評) 大切にしている六か何処に粗塩を打つ行為と、朝ぐもりの季語が絶妙。

並選

55 夕薄暑牛の背を搔く大束子

馬木 芳子

136 大いなる仁王の胸を蜘蛛走る

坂本たか子

337 子牛まだ眠りの深し朝の虹

北村 京子

418 蓮植うる背を爆音の軍用機

大久保信子

岡田真利子 選

特選

365 蟻地獄見てゐて喉の渴きけり

赤松 佑紀

(選評) 他の命の犠牲の上の命。人間も。それを思い作

者は喉が渴いた。感覚の句。

並選

132 花莫盛の匂ひ大きくひろげけり

戸栗 末廣

256 ピストルに打ち落とさるる泳者かな

村本 恭三

268 あらがねの匂ふ湧き水黒揚羽

田中 澄子

418 蓮植うる背を爆音の軍用機

大久保信子

鈴木 厚子 選

特選

297 風五月弔辞に替へてハーモニカ 藤本智恵子

(選評) ハーモニカで故人の思い出の曲を吹き、弔辞とした。五月の眩しさを。

並選

177 笙の音や星の涼しき巖島 永井由紀子

213 笑声の大きところに桜散る 行武麻千子

220 つばめ来る家船に水を運びひて 藤谷 知子

377 すててこが来てむつかしきことを言ふ 野間しげる

高卯 石男 選

特選

97 ソーダ水一気に入吸つて過去は過去 青木 遵子

(選評) ソーダ水を飲んでわだかまりを吹っ切った爽快感が伝わってくる。

並選

6 牛舎よりロツク洩れくる麦の秋 黒田 智彦

107 立ち居にも芯といふもの薄ころも 清水 和子

133 夏蝶の影のうつろふ爆心地 藤本 陽子

286 掬うては口へ顔へと岩清水 木村 浩子

田村祐巳子 選

特選

236 鉛色になりし鍵盤。パリー祭 殿村 礼子

(選評) フランスの歴史と華やかな文化をうまく結びつけた一句。

並選

192 星涼し帯の失せたる詩集手に 小田 康枝

243 薫風や大きくひらく象の耳 黒田 智彦

377 すててこが来てむつかしきことを言ふ 野間しげる

425 葉桜やすべて白紙の予定表 山田 澤子

寺田 記代 選

特選

438 千枚田雲の中まで青田波 前原 俊五

(選評) 真っ白な雲の中まで青田波。人の力と自然の美しさの究極の世界。

並選

118 掬ひ飲む日の斑のゆるる山清水 淺田 洋子

153 糠床に打つ粗塩や朝ぐもり 植田トモ子

410 揺るる葉に足をふんばる子かまきり 川口眞佐子

425 葉桜やすべて白紙の予定表 山田 澤子

永井由紀子 選

特選

14 薫風に開く図書館美術館

山田あつ子

(選評) コロナ休館が解けた喜びか。季語の清々しさ、

図書館、美術館の弾む音が素敵。

並選

106 許されて許して余生涼しかり

渡里トモ枝

181 祖母の歳母の歳すぎ麦の秋

大久保信子

274 あふれでることばのやうに枇杷熟るる

日比野さき枝

460 太陽の弓矢のやうな穂麦かな

小林 怜子

藤田かよ子 選

特選

47 純白の夾竹桃や祈りの地

高橋 康代

(選評) 戦後75年、今年も白い夾竹桃が咲いている。白

はまさに鎮魂の色。

並選

63 父の日や書棚にありし日の写真

濱本美智子

195 幼な子が手を振りほどく夜店かな

江竜 陽子

236 鮎色になりし鍵盤パリー祭

殿村 礼子

297 風五月弔辞に替へてハーモニカ

藤本智恵子

水口 佳子 選

特選

364 草笛を吹く少年もバスを待つ

石田 光子

(選評) 不思議とも思える少年との時間。物語のプロロ

グのような描写。

並選

182 病院の公衆電話アマリリス

松永 亜矢

268 あらがねの匂ふ湧き水黒揚羽

田中 澄子

390 目薬に溺るるまなこ夏の月

植田トモ子

456 読書ひねもすほととぎすの冗舌

下末かよ子

矢野真緋子 選

特選

441 しばらくは風に身をおく夏料理

植木すみ子

(選評) 美しい夏料理、見ただけで涼しく「風に身をお

く」心地良さ!

並選

98 ゆるやかな手話のごとくに糸桜

田村ひろこ

107 立ち居にも芯といふもの薄ころも

清水 和子

112 猪ゐると風の流れて知る農夫

横畑 順美

394 濡れてより大胆になる水鉄砲

川手 和枝

山口 美智 選

特選

256

ピストルに打ち落とさるる泳者かな 村本 恭三

(選評) ピストルの音で一斉にプールに飛び込んだ泳者を諧謔的に詠む。

並選

132

花萼の匂ひ大きくひろげけり 戸栗 末廣

350

在りし日のままの文机緑さす 村上 春美

377

すててこが来てむつかしきことを言ふ 野間しげる

470

老鶯や弥撒で始まる島の朝 波多野千鶴子

横畑 順美 選

特選

85

こだはりの難なくとけて夜の濯ぎ 木平 悦子

(選評) 濯のように胸にあったことが解決。夜の濯ぎでホッとした感がよい。

並選

79

をんなには女の品格鉄線花 田島久美子

154

戸籍てふ紙の重みや花は葉に 橋垣千鶴子

194

継げずして畳む老舗の夏のれん 光篠 弥生

334

盆点のひとりの刻を夏の月 青木 遵子

賞品を差し上げます

賞品は、

特別選者の特選3名に「芭蕉吟行案内」

互選1位〜3位に「新京都吟行案内」

次の方に「俳人協会俳句手帳」

特別選者の並選10名

指名選者(広島県支部役員)の特選の方17名

互選4位以下の方には賞品のある限り順番で

なお、賞品が同じ人に重複した場合は、上位の賞品1点

のみとし、下位の賞品は互選の高得点の方に順次回してお

送りすることにします。